

資料編

1. 参考文献集
2. 全国 2 次医療圏別医療需要予測

参考文献集

1. "Health at a Glance 2011 OECD indicators", OECD
2. "OECD Factbook 2011-2012 Economic, Environmental and Social Statistics", OECD
3. "Health at a Glance : Asia / Pacific", OECD
4. "Health at a Glance : Europe", OECD
5. "Health Operations Management : Patient Flow Logistics in Health Care (Routledge Health Management)", Jan Vissers, Roger Beech
6. "Lean Hospitals : Improving Quality, Patient Safety, and Employee Engagement, Second Edition", Mark Graban
7. "Dynamic Capacity Management for Healthcare: Advanced methods and Tools for Optimization", Pierce Story
8. "2030 : The Future of Medicine : Avoiding a Medical Meltdown" Richard Barker
9. "The Innovator's Prescription. A Disruptive Solution for Health Care", Clayton M. Christensen
10. "Redefining Health Care Creating Value-Based Competition", Porter M. Teisberg E.
11. 「循環型地域医療連携パスの実践プログラム開発」藤田伸輔、生坂政臣、高林克己、田邊政裕平成21年度報告書. 平成20～22年度千葉県血清研究所記念保健医療福祉基金事業助成研究
12. 文部科学省今後の医学部入学定員のあり方等に関する検討会.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/043/giji_list/index.htm
13. 「医師を取り巻く現状について. 第1回今後の医学部入学定員のあり方等に関する検討会」厚生労働省医政局
14. 「これまでの医学部入学定員の取り組みについて 第1回今後の医学部入学定員のあり方等に関する検討会」文部科学省高等教育局医学教育課
15. 「医療システムと必要医師数—医療需要増大地域の大学病院を中心とした医療システム—, 第3回今後の医学部入学定員のあり方等に関する検討会」河野陽一
16. 座談会「医師の偏在解消策と医師育成について」 醫學振興 73 : 11～30, 2011
17. 厚生労働省統計調査一覧 : <http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/>
18. 厚生労働省医師・歯科医師・薬剤師調査 : <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/33-20.html>
19. 厚生労働省患者調査 : <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/10-20.html>
20. 「在宅医療のグランドデザイン作成に関する部会 : 在宅医療のグランドデザイン. 平成19年度厚生労働省長寿医療研究委託事業」川島孝一郎ら、在宅医療推進会議作業部会
21. 「EU・国境を超える医療—医療専門職と患者の自由移動—」福田耕治、福田八寿絵
22. 「日本の市区町村別将来推計人口」国立社会保障・人口問題研究所（各年度版）

2次医療圏別医療需要予測

千葉大学医学部附属病院
地域医療連携部

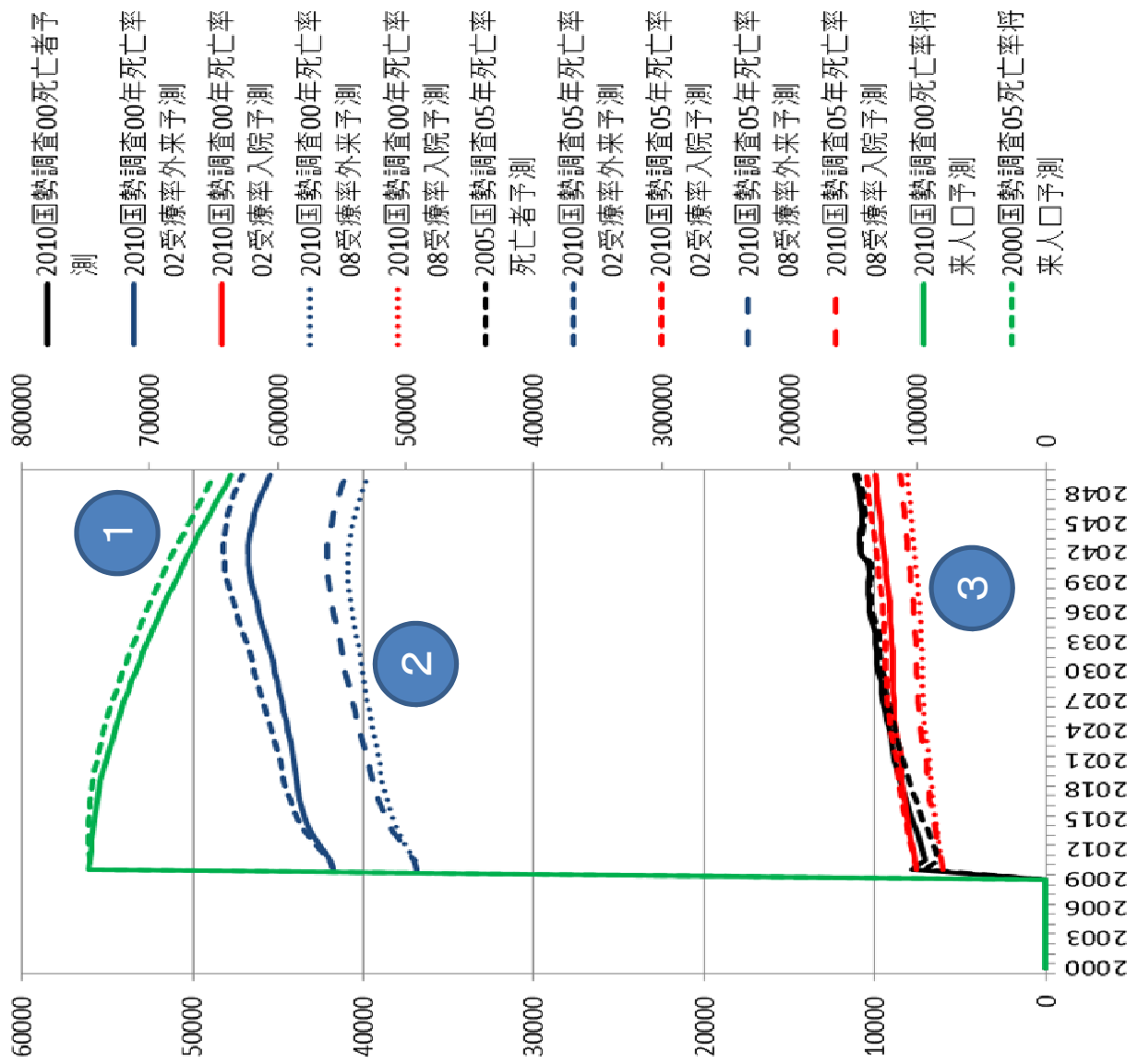
藤田伸輔

医療需要予測について

- この医療需要予測は国勢調査・生命表・患者調査データを用いて推計しています。
- 出生数は今後各地域で変動しないものと仮定しています。
- 人口の地域間移動は無いものと仮定しています。
- 女性の年齢別人口に出生率を乗じる出生数予測は行いません。
- 人口減少の速度はこの予測よりも早まる可能性ががあります。

医療需要予測

2010年版区中央部2次医療圏



1. 死亡率の改善
緑の破線と実線の差は死亡率の改善を示す。

2. 外来の変化
青線4本は2グループに分かれる。平成2年と8年の受療率の差。ADLの低下した高齢者が多いと差が小さい。

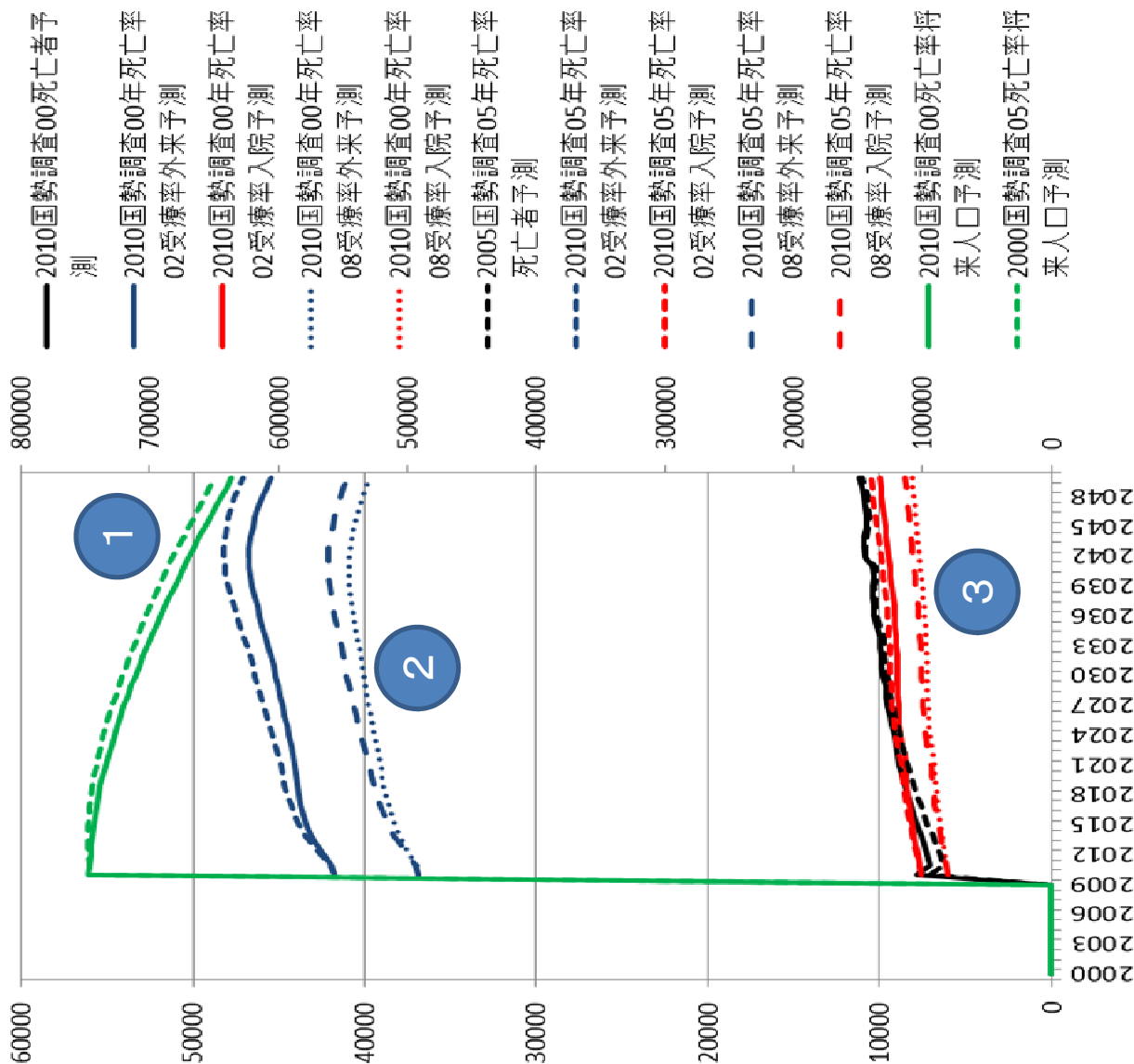
3. 入院の変化
赤線も2グループになる。医療の進歩と入院の適正化によって入院受療率が低下する。

医療需要予測

②外来の変化

青線は外来需要の予測である。2005年の国勢調査と2010年のそれを用いた人口推計を2002年の受療率と2008年のそれとを乗じた4群を用意した。2002年と2008年の受療率で大きく2群に分かれた。約半分の地域で2008年に外来受療率が大きく低下しているが、ほとんど変化のない県も11県(群馬・岐阜・静岡県・京都・兵庫・奈良・島根・岡山・愛媛・福岡・熊本)ある。その理由については今後検討が必要である。人口構造の影響、住民の診療態度、医療機関の分布などが影響していると思われる。

2010年版区中央部2次医療圏



医療需要予測

③入院の変化

赤線は入院需要の予測である。2002年と2008年の受療率で明確な差を生じた地域が多いが、約3分の1では差が小さく、9県(宮城・山形・山梨・長野・三重・滋賀・京都・和歌山・宮崎)ではほとんど差が無かった。

医療の進歩と入院の適正化(社会的入院の減少)によっても入院受療率が低下する。変化がなかった地域の個別の理由は今後検討しなければならぬ。

2010年版区中央部2次医療圏

